

橋本コラム トールのトーク

1963年10月26日に日本で初めて原子力発電に成功した。広島と長崎に原子爆弾が落とされて18年後のことだった。現在よりももっと原爆や放射能という言葉には日本中がナーバスになっていた時期もある。

「怒りの広島 祈りの長崎」それもあったのかもしれないが、ぼく達は科学の授業で原子爆弾との対比で、これからの時代は、原子力の平和利用と学生時代に習った記憶がある。約50年前のことである。何も判らないまま鵜呑みにしてしまったけれど、今になって思えばとんでもない国策事業に洗脳され加担していたんだな。いわゆるプロパガンダだよね。

そもそも米軍基地と並んで最大の忌避施設である原発の誘致や建設、稼働などには莫大な金が動く、昨今も関西電力の役員に現金や金杯が饅頭の箱に小判などと時代劇ながらに還流していたというが、あんなもの氷山の一角なのは目に見えている。平和利用とかクリーンとか、そんなきれいごとの裏で巨額の原発マネーが動き利権構造が作られた。

311の大震災で福島原発メルトダウン事故が起きた時点で危険極まりない原発はやめようとするのが普通なのに、自然には太刀打ちできないと誰もが思つただろうに、政権与党は再稼働に固執し続けている。なぜだ?それで得をするのは誰だ?

現在の日本国の借金1008兆円の中に組み入れられてはいるのだろう。税金だぞ。加えて借金には利子が付きいすれば返済しなきゃいけない。いったい誰が返済するんだろうね。

ほんとに日本の政官は救われないな。既得権益に守られて、いったん立ち止まって考える勇気がないんだな。

翻って、今年のノーベル科学賞に日本の吉野さんがリチウム電池の開発者として評価された。スマホなどに使われているからなじみのものだ。非常時の電源として備えてる方もいるだろう。電気自動車も量産化の途中だ。再生可能エネルギーを考えるときに発電したものをおいかに蓄えるかがネックになっていたが、吉野さんの受賞を機に蓄電池の研究が広まればいいと思う。

太陽光に限らず地熱や波力発電だってあるのだから。化石燃料からの脱却ともいわれる久々の明るい話でしたね。なーんてね、エネルギー自給率1割に満たない日本。どーする?

いつまでも経済が発展し続けるというのは幻想じゃんね。そろそろ「足るを知る」ときかな。

静岡障害者自立生活センター：橋本徹

(編集後記) 私が理事長に就任して6か月あまり、今回が2度目の機関紙発行になります。この間、私のもとで新たに広報委員会を発足させ、編集会議の開催から原稿依頼、

記事執筆、編集・校正までを、この広報委員会で行うことにより「みんなで作る機関紙」という体制を作り上げることができました。これからも、「みんなで楽しく」機関紙発行ができるいいな〜、と考えています。また広報委員会が中心となって、当法人のホームページをリニューアルいたしました。この機関紙が発行される時期に合わせて、公開される予定です。ぜひチェックしてみて下さい!

(広報委員 小久江寛)

ひまわり事業団

検索

“どんなに重い障害があっても
地域で共に生きる社会”を目指して！



発行 NPO 法人 ひまわり事業団
静岡障害者自立生活センター
編集 ひまわり事業団 広報委員会
〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL : 054-288-6068
FAX : 054-287-4922
E-mail : himawari@scil.jp
ホームページ : http://www.scil.jp



今年も開催！！



ひまフェス Vol. 3

多くの皆様にご来場いただき、ありがとうございました！



ひまフェス vol.3	2-3
就B ディズニーランド旅行記	4-5
生活介護 THE チャレンジ	6-7
センター×センター	8-9-10
理事長初研修！STEP えどがわ報告	11
長期自立生活プログラム(ILP)	12-13
花井大輔旅行記・旅マイスターOKU	14-15
橋本コラム「トールのトーク」	16

今月の
目 次

ひまフェス vol.3 開催しました！

2019年10月19日(土) 第三回ひまフェスが開催されました。
昨年に引き続き 100名以上の方々が来て頂きました！

今回のラインナップはこちら！

ステージ発表

- ・吹奏楽演奏『清水ウインドオーケストラ』
- ・生活介護それいゆ『音楽発表』
- ・フラダンス発表
『リノ・ピリアロハ・フラセラピー』
- ・ヴァイオリン演奏
- ・マジックショー

フースコーナー

- ・ゲームコーナー(輪投げ、ストラックアウト)
- ・お化け屋敷
- ・クラフト
- ・お化けカフェ
- ・フードコーナー
- ・創作 ILP 作品展



今日、初めて来させて頂きました。すっかりごちそうになってしまって、ありがとうございました。

クラフト、お花ができて楽しかった！

昔、ここが古戦場だったとは初めて知りびっくりしました。



ひまわりの額縁作りを
クラフトコーナーで！



なな～らチーム
でおもてなし



とっても楽しい時間をありがとうございました。また来年もぜひ参加したいです♪



無料ランチコーナー盛り沢山で、美味しかったです。ありがとうございました！



リノ・ピリアロハ・フラセラピーの
皆さん、ありがとうございました！
毎週木曜夜
ひまわり事業団事務所にて
練習中！！

毎年グレードアップ？！
お化け屋敷..



お化けより

今年も大繁盛のおかげで、休んでいる暇が無いほどでした。今回は前回の反省もありほどほどの怖さにしました。
楽しんでもらえたでしょうか？次回も怖さも有り、楽しさも有りのお化け屋敷にしていきますのでご期待下さい！

企画委員会より

今年で第三回を迎えた「ひまフェス」。テーマは「おもてなし」で、「まちの縁日」をイメージして開催した。あいにく天候だったが、予想していた以上に来場者が多く、ステージ企画では吹奏楽団の演奏やフラダンス、マジックショーなど、盛り上がりを見せた。今年のお化け屋敷は、目玉である「落ち武者の亡靈」が大活躍だった。かつて我々の団体で開催していた「虹たね夏祭り」のような、楽しい「ひまフェス」を目指して来年も企画していきたい。

来年もお待ちしております！！

念願の

就労継続支援 B型 それいゆ ディズニーランドへ行ってきました！



ずっと行ってみたかったディズニーランド旅行を決行！！

常葉大学の学生ボランティアさん 15 名と保護者の方のご協力の下、総勢 48 名で楽しんで来ることができました。

今回はバスツアーではなく、新幹線+京葉線での旅。

新幹線の雰囲気、東京駅の人混み、乗り換えなどドア to ドアでは味わえないドキドキを体験してくることができました。



パークを出て集合場所へ行った時の皆さんの楽しそうな顔、楽しかった話をしたり聞いたりする姿を見てとても心が温かくなりました。そんな場に一緒にいられたことがとても光栄でした。

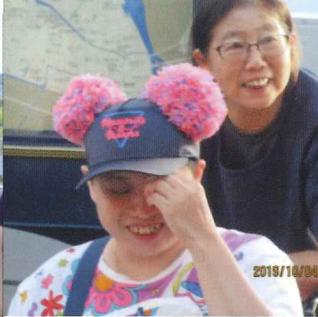
常葉大学3年 Hさん

障害を持つ方と一緒にお出掛けすることは初めてでした。
事前の計画の大切さを学びました。普段何気なく行っている動作が困難になることを知ることができました。

常葉大学3年 Mさん



駅でトイレに行くときや、パーク内に入った後は普段注目しない場所へ目が向くようになり、今回のボランティアに参加したからこそ知ることができました。「ありがとう」と言ってもらったことは、一生の思い出です。 常葉大学3年 Tさん



最初は不安だったけど、実際関わってみるととても楽しくて、一日があっという間でした。

常葉大学3年 Aさん

★竹下友斗君 ファッションショー出演★



9月15日、静岡駅北口地下広場にて、「障害者モデルのファッションショー」に出演！！髪の毛も、本人希望の金髪にし、気合十分。大勢の観客の前で、見事なランウェイを披露してくれました。



生活介護 それいゆ THE ちゃれんじ

ボッチャを通じて地域とのつながりを

イタリア語で「ボール」を意味するボッチャは脳原性疾患による四肢麻痺など、比較的重い障がいのある人のために考案された競技だ。生活介護それいゆではボッチャを多くの方と楽しんでいる

文責：鈴木香奈

パラリンピック選手との約束

きっかけは2017年に遡る。

リオデジャネイロパラリンピックのボッチャ銀メダリスト杉村英孝選手（写真右）を事務所にお招きし、素晴らしいプレーを間近で見たそれいゆメンバーは一瞬でボッチャに目覚めた。

「ボッチャを楽しみながら知名度をもっと上げてほしい」という杉村選手との約束を果たすべく、地道にボッチャに取り組んできた。やがて、社会福祉協議会とのつながりで地域の方々とボッチャを通じて交流する機会が増え、同時にボッチャがより多くの方に知ってもらえていることを実感。今回は地域のみなさんとの交流の様子をお伝えしたい。

わかふじスポーツ大会優勝！！ 石澤海斗さん



9月23日（土・祝）に開催された第20回わかふじスポーツ大会ボッチャの部で我らが生活介護それいゆの若手エース 石澤海斗さんが見事優勝しました！！大会に出場したのは海斗さんを含め同級生4名。卒業後、一度も会うことができず、練習ができなかったそうですが、ぶっつけ本番で優勝してしまったそうです！！

金メダルを貰えてよっぽど嬉しかったのか、しばらくの間それいゆに来る度にメダルを首からかけていました。



8月22日（木）

みなくる市民講座『ボッチャをやってみよう』

昨年に続き、駿河区社会福祉協議会より講師依頼をいただき、静岡市地域福祉共生センターみなくる（駿河区南八幡町3番1号）にてボッチャ体験講座に参加させていただきました。

地域の幼稚園児から高齢者までの多世代の方々が参加され、私たちと一緒に同じフィールドで励まし合いながら楽笑了しました。

参加してくれた小学生からは「楽しかった」との感想を多くいただき、とても嬉しかったです。



9月27日（金）

「福祉とスポーツ」ボッチャ体験 静岡市立横内小学校

静岡市立横内小学校の4年生を対象にボッチャ体験をさせていただきました。今年の総合学習のテーマが「福祉とスポーツ」とのこと、ボッチャを楽しみながら「車椅子ってこんな作りになっているよ」とか「ボッチャを自力で投げるのが難しい場合は、ランプという補助具を使うんだよ」など障がいに対する理解も少しは深めてもらえたかな。

「ただ投げるだけではなく、頭も使わなければいけないと思った」「障がいを抱える人とも一緒にできるスポーツっておもしろい」など、たくさんの感想をいただきました。

11月21日（木）

「福祉：日常生活の幸せを見つめなおそう」

ボッチャ体験 静岡市立富士見小学校

静岡市立富士見小学校では社協職員のご協力のもと、今回もボッチャを通じて楽しく交流することができました。富士見小ではボッチャに積極的に取り組んでいて富士見小オリジナルルールまであるそうです。試合中だけではなく、トイレに行きたいという利用者さんがいれば率先して車椅子を押してくれるなど、とても温かい光景が見られました。

ボッチャはどんな方でも楽しめるスポーツです。
東京パラリンピックを前に、みなさんもぜひボッチャに触れてみませんか。



サポーター

CHIBA MAMORU × KANOU HIRONO

× サポーター

千葉 まもる
護さん

ALS歴20年

誕生日：2月22日。

血液型：O型

趣味：旅行、サッカー観戦

長所・短所は基本、優しい（誰にでも…外面は最高）イコール
優柔不断なところもある！

互いに支え合う、「利用者とヘルパーの関係」に焦点を当てる本企画。第6回目は、ひだまりの利用者千葉護さんと、ひだまりのヘルパー狩野洋乃さんに、お話を伺いました。

お二人の出会ったきっかけを教えてください。

千葉：2002年の11月によく退院となる。当時、ホットハート静岡の送迎を頼んだ時が狩野さんと最初。当時はストレッチャーで行くものだと思っていたから、「車いすでも出かけられるの？」と聞いたら、「呼吸器を付けたらどんどん出かけられるじゃん！」と言ってくれたのを覚えています。



ALSという病気になってからの大変だったこと・良かったと思えることを教えて下さい。

千葉：未来がなくなったと思った。2002年7月に胃ろう、2002年8月に呼吸器をつけました。呼吸器の調整も大変です。でも病気になってから色々な人に出会えました。その人達と出会えた事で知識も増えたし色々な経験もできました。その優しさに触れたおかげで病気に対する考え方も前向きに変わってきました。



狩野 洋乃さん

ヘルパー歴約20年

誕生日：6月21日

血液型：A型

趣味：ライブを観に行くこと
ドライブ

長所にも短所にもなるのかな。あまりクヨクヨ考えないし(一晩寝れば意外に忘れる!)頭使う事より、身体動かして脳を活性化してのかなあ~小さいころから…

思い出に残る旅行を教えてください。

狩野：富士登山です。毎年千葉さんと行っていて、今年で9回目。ある日、千葉さんが新聞の取材を受けて、呼吸器を付けて何処か行きたいところはありますかという問い合わせに、富士山と答えたのがきっかけ。この富士登山は標高の高い所へ行くので呼吸器調整が必要で練習をしました。富士山で星を見て、日の出を見たのが思い出です。ホント、綺麗だったね！

千葉：富士山は愛犬の「トボ」と一緒に行けたのも良いです。他にも伊豆の温泉も良かったです。アンビュースを使って内風呂、外風呂、両方入りました。薄々、ALSと分かってからの旅行。最後の車の長距離運転旅行となったことで印象的。

狩野：千葉さんのおかげで私も色々な所にいけるんですよ。



レスパイトと在宅での違いや思う事・感じる事は何ですか？

狩野：在宅は至れり尽くせりに対して、看護師さんの手が回らないと、ほっとかれるのが気の毒に思います。

千葉：在宅ではみんなが自分のために動いてくれるから助かっています。レスパイトは家族を100%休ませられるので助かっています。今年からコミュニケーション支援が取り入れられレスパイトも大分変わってきた。



狩野さんに対して思う事を教えて下さい。

千葉：狩野さんと出会って、世の中が広いことに気が付きました。このままひだまりでやって頂きたいです。

千葉さんに対して思うことを教えて下さい

狩野：常に前向きな笑顔が素敵でそれに動かされている。お父さんに対して尊敬でしかない。疲れていて、本当は家でゆっくりしたいのだろうなと思っても、約束やスケジュールを必ず守るのは尊敬しています。ただ、熱が出ているのに無理に外出するのは心配なので辞めてほしいです（笑）





今後一番やってみたい事を教えて下さい。

千葉：村上春樹さんの講演会に行きたいです。
それと美術館巡りもしてみたいですね。
とにかく色々な所に行ってみたいです。

最後に何でもいいので思っている事を教えて下さい。

狩野：障害が理由で、やりたい事したい事ができない人の、やりたい事したい事をするのがヘルパーの仕事と考えています。

千葉さんが外出したいと思っているなら、外出の支援をするのが私の仕事です。

千葉：今は過去を顧みて、良かった事悪かった事などの反省をしています。



皆さんのおかげで、生かしてもらってありがとうございます。これからも今が継続されると同時に、来年は傘寿となりますので、少しわがままを言わせていただきますと、散歩などとにかく外に出る時間が欲しいです。夜間の介助もして頂きたいですし、たまには泊りの外出もしたいです。残り少ない時間かもしれません、生きている喜びを感じ私のような人の参考になれれば、私が呼吸器をつけて生きてきた事に、私自身が良かったと思えます。

STEPえどがわ報告

STEPえどがわの皆様、温かく受け入れていただき、ありがとうございました。

**報告 小久江寛
介助者 柴田昭平**

こんなちは、こんばんは。改めまして、6月よりひまわり事業団の理事長に就任いたしました小久江寛です。令和元年10月8日、理事長就任後初の自立生活センターへの研修としてSTEPえどがわに行ってきました！

今回の研修では、他の自立生活センターの様子や、当事者スタッフの役割について学んできました。STEPえどがわの事務局長でもある土屋峰和さんは、私の昔からの知り合いで、自立生活センターの基礎の基ともいえる、ピアカウンセリングやILP、NPO法人の事業所運営等のつっこんだ話を聞きに行きました！

※STEPえどがわは、平成14年5月に、江戸川区内内在住の、障害を持つ当事者が中心となって立ち上げた団体。訪問した日は当事者スタッフ8名が在籍し、ピア・カウンセリング、自立生活プログラム（ILP）、ヘルパー派遣事業、無料相談、情報提供、人権擁護活動各種交渉、各種イベント・啓発活動等、日々の活動に取り組んでいます。

ホームページ：<http://www.step-edogawa.com/>

感想：STEPえどがわは、いつも昼食をみんな一緒に食べたり、とてもアットホームな感じ。壁際にパソコンを配置する等、車椅子の当事者が動きやすいようにデスクのレイアウト工夫もしていた。当事者スタッフがとても多く、全てのスタッフの役割分担もはっきりしており、一人一人が自身の仕事に対して自信と責任感をもって仕事に取り組んでいる様子や発言等がうかがえた事に、障害者自立生活センターとしての頼もしさを感じた。ひまわり事業団を今後運営していくにあたり、問題が起きた時などに重要な判断の責任を取ることが出来る人が自立生活センターを引っ張っていくべきではないかと改めて感じた。更に偶然にも、CILの有名人今村登さんもこの日はSTEPえどがわに来られており、(大変忙しい方の為、珍しいとの事)話をする時間も少し設けて頂き、とてもうれしかった！ 今回はあまり時間が無く、聞きたいことの一部しか聞くことが出来なかつたが、研修を通してSTEPえどがわと関わりを持つことが出来たため、今後STEPの当社員は一員とももっと関わりを持ち、ひまわり事業団の成長につなげていければと思う。その一方で、STEPえどがわは、相談と介助派遣のみの事業運営を行っており、ひまわり事業団のように、多くの事業を行っている自立生活センターにも話を聞いていきたいとも思った。

ps 土屋さん、今回機会を設けて頂き、ありがとうございました。またの機会を楽しみにしております。文責：柴田昭平

静岡障害者自立生活センター 長期自立生活プログラムを開催しました

令和元年度 長期自立生活プログラム

令和元年8月22日～10月24日 毎週木曜日 13:00～16:00（全10回）

- プログラム
- 第一回 自己紹介
- 第二回 障害ってなに？
- 第三回 介助者との関係
- 第四回 自立生活ってなに？①
 - ・自立生活運動とは
 - ・CILってどんなところ？
- 第五回 自立生活ってなに？②
 - ・金銭管理・整理整頓
- 第六回 自立生活ってなに？③
 - ・お宅訪問
- 第七回 フリートーク
- 第八回 フィールドトリップ
- 第九回 家族との関係
- 第十回 まとめ・交流会

8月～10月にかけて長期自立生活プログラム（全10回）を開催しました。受講生は3名、内2名は我々の団体の生活介護に通うメンバーで外部からの受講は1名でした。今年度は年号も変わり令和となって初の長期自立生活プログラムであり、団体の体制も新しくなったことで準備にもチカラが入りましたが、日程（平日開催）や広報不足もあり外部からの申し込みは1名にとどまりました。しかし、今後自立生活を目標にしている方が受講しプログラムは意欲的なものになりました。プログラムでは、介助者との関係や指示の出し方、金銭管理や整理整頓など具体的な方法を学び、障害の需要や家族との関係など障害を抱えて生きることで起こる様々な課題や悩みに対して、ピアカンセッションを通して自分なりの解決方法を探ることができました。

また、フィールドトリップ（外出プログラム）では三島大社（三島市）へ出かけ、思い思いに過ごすことができました。そして、三島大社の近くにある自立生活センターアシストMILへも訪問。受講生にとって他のCILの活動を生で見ることができてとても良い刺激になったようでした。

プログラムの内容は、従来からの講座マニュアルを踏襲して実施しています。自立生活を目指す上で



自立生活センターアシストMILの仲間と



必要なことを網羅しているプログラムですが、ロールプレイの内容であるとか例題のポイントが時代に即したものになっていないもののがいくつかあるため、現代に合わせた内容の再考が課題となります。来年度は、特別支援学校の進路担当とも連携しながら、現代の10代の障害当事者のリアルな課題をリサーチし、新たなプログラムの構築も検討しています。プログラム、活動を通して未来の自立生活センターのスタッフを担う若手障害当事者の発掘も目指していきたいと思います。

自立生活 プログラムって 何だろう？

自立生活プログラム（ILP）とは、障害者が自立生活に必要な心構えや技術を学ぶ場です。障害者と健常者が共に生きる場をつくるために、まず「障害者自身が力につけていく場」です。

全国自立生活センター協議会 HPより

例えば
こんな時

障害のある人が住み慣れた
地域で1人暮らしを
したいと思った時、どうしたらいいの？

私にも
できるかな？



障害をもっていても
1人暮らししたいな。

自立生活プログラム（ILP）は障がいを持つ人が地域で一人暮らし（自立生活）をしたいときに、必要な知識や技術を身につけるためのプログラム。

『障がいを持っていても一人暮らししたい！』と思っても、どうやったらいいかわからない…住む家や介助者のこと、使える制度や生活費のこと…分からぬことや不安に思うことがたくさんあります。また、『どうせ自分には無理…』と諦めてしまっている人もいます。

自立生活プログラムでは、すでに地域で自立生活を実践している障がい当事者（ロールモデル）がリーダーとなって、自身の経験を伝えながら自分なりの自立生活の方法を一緒に考えていく講座です。

同じ背景（障がいを抱えて暮らす）のロールモデルの姿を見て、経験を聞き、仲間のサポートを得ることで自分自身の自立生活のイメージを膨らませ、自分に「何が出来て（得意）」「何が出来ない（苦手）」を知ることができます。自分自身の“今”を知ることが自立生活の第一歩になります。

文責：大川 速巳



母と行った日本一周クルーズ旅行 10 日間!!

花井 大輔

私は、母と一緒にジャパネットクルーズを利用して9泊10日行ってきました。
行った理由は、船を使っての旅行が初めてで行ったことがなかったからです。
期間は、9月21日(土曜日)～9月30日(月曜日)までです。

船が台風の影響で左右にゆれて変な感じでした。

船内の様子は、外国形式のホテルでジャグジーがあったり、
カジノやプールもありました。
でも、プールは海水を使っていたのでショッパかったです。
ベッドがとても硬くて自分で向きを変えることが出来なくて大変、
トイレは、洋式で使いやすかったです。

風呂は、浴槽がなくてシャワーだけだったので使いにくく、またシャワーチェアもなく、誰かに前から支えてもらわないので辛かったです。

結局、行く前から咳と鼻水がひどかったので1回しか入れませんでした。

寄港地は、以下の通りです。

横浜～鹿児島、鹿児島～金沢、金沢～佐世保(長崎)、佐世保(長崎)～釜山(韓国)
釜山(韓国)～徳島、徳島～横浜　なお、台風の影響で北海道と秋田には行けませんでした。

鹿児島では、「西郷どん」の舞台で使用された仙獄園に行きました。

天気が良かったので海や山の風景が綺麗でした。

また、徳島では前から行ってみたかった大塚国際記念美術館に行きました。

こここの美術館は、じかに展示物に触ることが出来て一緒に写真も撮れ、天井に絵が沢山あってとてもビックリしました。

展示物も沢山あったので見て回るのが大変で、とても2時間では巡りきれませんでした。

時間がなくて、お土産もあまり買えませんでした。

全体の感想は、10日間だったので長くて疲れました。

フルーツが美味しいで沢山食べました。

次回は、浴槽がある船に乗って短期間の旅行を楽しみたいです。



旅マイスターOKU のインディー旅のすすめ

その5 イギリスで障害者と共同生活をする（1）

「施設生活＝ツアー旅行」であるとしたら、「自立生活＝インディー旅」です。
自立生活を目指すアナタは、もちろん旅もインディーで行きましょう！

皆さん、これまでに、自分の人生をやり直したいと思ったことは、ありませんか？…といつても人生は、ゲームのように簡単に「リセットして最初からやり直し！」というわけにはいきません。生まれた環境や容姿は変えることができません…しかし、「住む場所」と「職業」を変えることで、生活のかなりの部分に変化をもたらすことは可能です。OKUは20代の最後に、この「人生を一からリセットしてみたい」という思いにとりつかれ、仕事を辞め、住んでいたアパートも引き払い、当時の女房と国外逃亡？を試みました。ついでにこの時の女房も帰国後にリセットしてしまいましたが（笑）

で、いったい何をしたかというと、イギリスに移り住み、ロンドンから1時間ほどのミルトンキーンズという街で、約1年間、障害を持った人たちと共同生活をしたのです。ヨーロッパにはキャンプヒル共同体というものが各地に点在しています。このキャンプヒル共同体とは、wikipediaによると、以下のような説明になります。

「ルドルフ・シュタイナーが提唱した人智学に基づく社会活動である。学習障がい、心理面における葛藤を持つ、成人、児童による共同生活を行う。2010年時点で、世界21カ国、119カ所で行われている」

う～む、何やら難しそうですが、まあ簡単に言えば、障害者と健常者が共同で寝食をともにして、いっしょに働いたり、楽しんだりするトコロです。

シュタイナーというのは、「シュタイナー教育」などで有名なあのシュタイナーですが、OKUは決して「シュタイナー思想を実践しよう…」などという高尚な目的があって参加したではありません。

ホンネを言わせてもらえば、ボランティアとして移り住めば、「宿代タダ、メシ代タダ、おまけに小遣いまでもらえる（1週間に約4000円）」という点にソソられただけです。



「人生リセットしよう！」と決めたものの、当時は今のようにインターネットが普及している時代ではありません。

ネットでぽちっ！とクリックひとつでハイ参加…というわけにはいかず、まずは英語の辞書片手に鉛筆なめなめ、現地に手紙を書くことから始まりました。

おまけに推薦者の言葉も必要、ということだったので、当時の静岡障害者自立生活センター代表：渡辺正直の推薦文を添えて、なんとか「受け入れOK」という返事の手紙が届くところまでたどり着いたのでした。